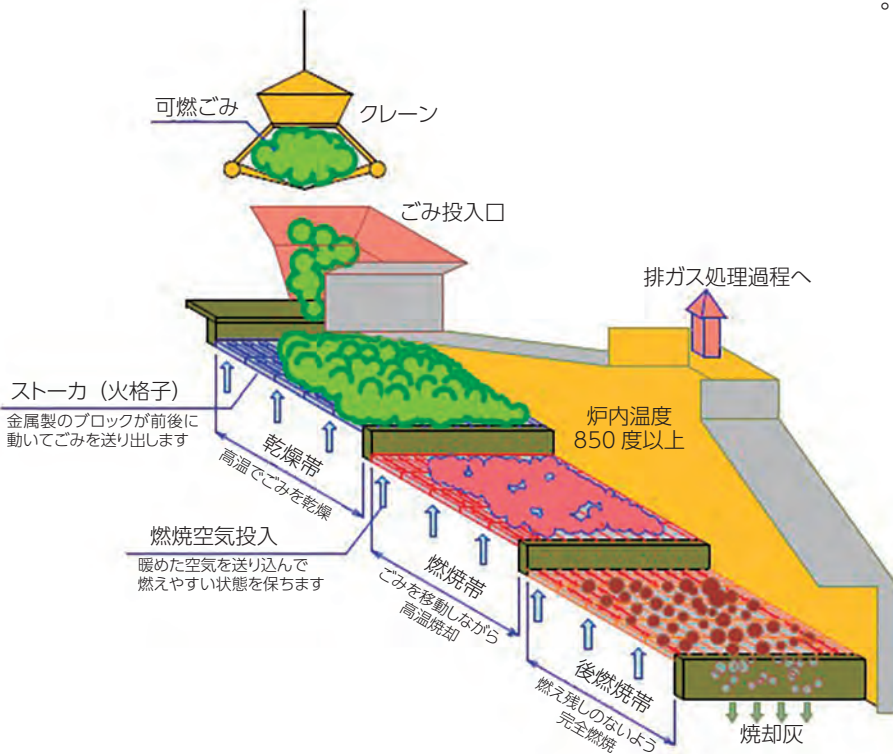


ごみの排出量 (推定値と実績)

処理対象項目		R8処理量 (推定値)	H31処理量 (実績)
可燃ごみ	一般廃棄物	家庭系	13,310t/年
		事業系	8,149t/年
	産業廃棄物	450t/年	594t/年
	計	21,909t/年	23,717t/年
破砕・選別残さ		976t/年	687t/年
合計	年間処理量	22,885t/年	24,404t/年
	日平均処理量	62.7t/日	66.9t/日

- 稼働率を考慮した規模(*)
 施設規模(t/日)=計画年間日平均処理量(63t/日)
 ÷実稼働率(280日/365日)÷0.767
 ÷調整稼働率(0.96)=86t/日
 - 災害廃棄物の処理を考慮した規模(1日当たりの焼却処理量の10%を加算した数値を想定)(*)
 施設規模(t/日)=86t/日×1.1=95t/日
- * 24時間連続運転

ストーカ炉のイメージ図



全国の直近5年間の稼働実績

種類	分類	方式	直近5年間の稼働実績 (%)
溶融なし	焼却炉方式	ストーカ方式	82.9
		流動床方式	1.2
溶融あり	ガス化熔融炉方式	シャフト炉方式	8.5
		流動床方式	4.9
その他			2.5



ストーカ方式って何?
 加熱した状態の焼却炉内にごみを投入し、「ストーカ」と呼ばれる可動式火格子の上を前後に移動させながら、下から空気を送り燃焼させる方式です。
 焼却炉内に燃料を投入することなく「ストーカ」の上で、ごみが乾燥、燃焼、後燃焼の過程を経て、約2時間程度で完全燃焼します。

◆新ごみ処理施設はこんな施設です

ごみ処理施設建設検討委員会からの提言書を踏まえ、施設建設に必要な項目について、市で検討を行い、施設建設の基礎となる基本設計を策定しました。

(1) 施設規模

将来人口の予測や過去10年間のごみ排出実績から、ごみ減量化を積極的に取り組むことを前提に新施設稼働時(令和8年度)の焼却処理量を年間22,885tと推定しています。これを踏まえ、災害発生時の廃棄物処理にも対応できるように施設1日あたりのごみ焼却能力を95t(47・5t×2炉)とします。

【廃プラスチックの焼却処理について】

これまでどおり回収したペットボトルやプラスチック製容器包装などのリサイクル可能なプラスチック類は、引き続き再生利用を行います。再生利用できないもので、燃焼により有害物質が発生する恐れがないものについては、国の方針に従い、新施設で焼却処理して熱エネルギーの有効利用を図ります。

(2) 焼却方式

ストーカ方式を採用します。

【採用理由】

観光都市である高山市は、年間を通じて多様な廃棄物が発生し、ごみの質や量の季節変動が大きいことが特徴です。本方式は、燃焼の安定性に優れ、全国的に採用実績が多く信頼性が高いことに加え、さらに現施設においてメンテナンスの実績も積み重ねています。